

平成29年度 小平第二みどり作業所 事業実績報告書

1 総括

平成29年度、利用者のニーズによりきめ細かく対応するために、既存の就労継続支援B型3事業所を生活介護事業所1箇所、就労継続支援B型2箇所に再編成した。小平第二みどり作業所は就労継続支援B型事業所として継続し、利用者の就労支援に一層力を入れていくことが中長期的な目標として設定された。再編後初年度の29年度は、利用者の仕事に対する意識や技術の向上、工賃向上、またそのために必要な職員のスキルアップを具体的な重点目標に掲げてのスタートとなった。しかし、十数名の利用者が移動により減少したうえ、施設長の交代、職員の異動があり、年度当初はこれまでの活動をいかに継続するかを大きなテーマとせざるを得なくなり、特に、施設長の交代と職員の異動は大きな影響があった。一人ひとりの利用者の状況把握や支援方法の習得、各作業の工程及び技術の習得、基本的な活動の流れの把握など28年度までの活動を維持、継続するための基本的事項の習得に多くの時間を費やすことになった。大きな混乱もなく事業はスタートすることは出来たが、このことが大きく影響し、結果的に重点目標に対する取り組みは不十分なものとなってしまった。

特に、上半期は支援計画に基づいた支援やその実践記録が不十分となり、利用者一人ひとりの作業能力向上に向けた支援が組織的に行えなかったことが大きな反省点である。この反省に立ち、下半期に利用者一人ひとりの支援計画とその実施状況を職員全体で確認することから始めた。日々のミーティングや支援記録を丁寧に記載することにより支援方針の統一を図り、徐々にその効果が出つつある。利用者一人ひとりのスキルアップ、就労支援事業の拡充など機能分化の効果に対しての真価が問われるのは次年度以降と考えている。

2 事業概要

- 1) 施設名 小平第二みどり作業所
- 2) 事業種別 就労継続支援B型
- 3) 所在地 東京都小平市天神町3-7-16
- 4) 運営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 40名
- 6) 利用現員 41名 (平成30年3月31日現在)
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成20年4月1日
- 9) 職員 11名 (平成30年3月31日現在)

管理者	1名	常勤1
サービス管理責任者	1名	常勤1
職業指導員	3名	(常勤換算3.0)
生活支援員	7名	(常勤換算5.7)
目標工賃達成指導員	1名	常勤1

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
安心と希望の持てる生活

4 基本方針

- 1) 就労支援
 - ① 利用者の個々の特性にあった就労支援事業の活性化
 - ② 生き生きと働ける職場
 - ③ 職業指導の充実
 - ④ 賃金の保障
 - ⑤ 就労移行支援の実施
- 2) 生活支援
 - ① 日中活動の支援
 - ② 豊かな生活の支援

- ③ 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援
- ④ 個別支援計画に基づいた計画的な支援
- ⑤ 利用者への相談支援
- ⑥ 安心できる将来への支援

5 実施事業（活動内容）

1) 就労支援事業

- ① クッキー製造・販売
- ② パン製造・販売
- ③ 公園清掃
- ④ マンション清掃
- ⑤ 緑化推進事業
- ⑥ 受注作業（ポスティング作業等）

2) 生活支援事業

- ① レクリエーション（月1回実施）
- ② 音楽教室（月2回実施）
- ③ 旅行（年1回実施）
- ④ 生活支援プログラム（週3日実施）
- ⑤ 夕方生活支援事業（週3日実施）

3) 行事

- 4月 永年勤続表彰式・新社会人を祝う会
- 5月 障がい者運動会
- 6月 森永乳業見学
- 8月 川遊び、みんなの音楽会
- 9月 多摩動物公園
- 10月 一泊旅行（静岡県熱川方面）
- 11月 昭和記念公園散策
- 12月 忘年会
- 1月 新成人を祝う会
- 2月 防災訓練
- 3月 カラオケ

6 日 課

開所・送迎・清掃	8:30～	9:00
朝 礼	9:00～	9:15
準 備	9:15～	9:30
作 業	9:30～	10:30
休 憩	10:30～	10:45
作 業	10:45～	11:45
片付け	11:45～	12:00
昼休み	12:00～	13:00
昼 礼	13:00～	13:05
準 備	13:05～	13:15
作 業	13:15～	14:15
休 憩	14:15～	14:30
作 業	14:30～	15:30
終 礼	15:30～	15:50
送 迎	15:50～	16:30
清掃・記録等	16:30～	17:00
職員打ち合わせ	17:00～	17:30

7 重点課題・目標に対する成果と課題

1) 利用者一人ひとりの作業に対するやりがいと責任感の構築

やりがいと責任感を持って利用者一人ひとりが作業に従事できるよう、以下の2点を今年度の重点目標として取り組む。

- (1) 一人ひとりに対して職業指導計画を作成し、目標設定を明確にすることで職業指導の充実を図る。
- (2) 一人ひとりの作業レベルや状況に合わせた、声かけ、作業目標の設定とその達成度の共有などを行い、作業意欲の向上を図る。

【成果と課題】

上半期は、朝礼や昼礼で利用者から作業種や作業工程の意向を聴取し作業提供を行った。その都度、個々の希望を聞き入れながら作業を実施することはできたが、目標、課題、到達度などの整理ができておらず、計画に沿った支援の実施は不十分な状態であった。その反省をもとに、下半期は、利用者一人ひとりの作業支援計画書を作成し、作業目標の設定を行なうほか、支援する側の意識付けとして作業目標をケース記録にも記載できるよう書式の変更を行なった。個々の状況の把握と支援経過の継続的な確認により、一貫した支援が行えるようになり始めている。しかし、支援内容が技術面に偏りがちで、やりがいや責任感をもてるような支援について視点が不足していたと感じている。次年度以降、作業能力の伸長や言葉かけ、環境設定が職業人として意識の醸成に与える効果も含めて支援計画の策定と実践に取り組みたい。

2) 就労支援事業収入の収益拡大

工賃向上を図るために、就労支援事業収入の前年度比500,000円増を目標とする。

【成果と課題】

総括で触れたように、職員の交代による影響が大きく、前年度の作業レベルの到達に多くの時間を要し、発展的な取り組みが十分に行えず、収益が減少するという結果になった。

(1) クッキー事業収入 710万円(前年度比200,000円増)

主にクッキー製造へ配置していた職員2名が異動となる為、新たに配置される職員の作業技術向上を図る。年度末までに定番商品を1人で製造できるようにする。

【成果と課題】

28年度までクッキー製造に中心的に関わっていた職員4名の内2名が異動のため、交代となり、生産力と品質維持のため、新任職員の製造技術向上が取り組むべき課題であった。1年間で殆どの商品(定番商品)の製造が出来るまでの技術習得を目標に設定し、計画通り年度末にはそのレベルに到達することが出来た。前任の技術レベルに到達するには後の1年程度の時間が必要と考えている。また、商品の製造については目標に到達したが、仕入から製造時の人員配置、販売までの業務を行うレベルには到達することが出来ず、結果的に他の2名の職員が行なうこととなった。このことが年間を通して製造販売が伸び悩むこととなった一つの要因である。その他の要因として販路の拡大に向けた取組が不十分であったことが挙げられる。歳暮の繁忙期の売り上げは昨年度と比較して増加したが、それ以外の時期の売り上げが伸び悩む結果となった。積極的な宣伝活動を行えなかったことが原因と考えられる。クッキー作業に携わる利用者、職員の1日平均人数は昨年度同様15名であり、一人当たりの1日平均売上額が前年度の1,367円に対して、今年度は1,203円と生産性が低下した結果となった。

	28年度	29年度
総売上額	7,086,788円	6,770,352円
純利益	5,023,157円	4,909,337円

(2) パン事業収入 270万円(前年度比200,000円増)

28年度に新たに配置された職員の作業技術向上を図る。また、コダイブランドを活かして販路拡大を行う。

【成果と課題】

28年度までパン製造に中心的に関わっていた職員2名の内1名が異動となり、新たに2名の職員を配置し、3名の態勢とした。クッキー同様、生産力と品質維持のため、新任職員の製造技

術向上が取り組むべき課題であった。新任2名の内、1名は順調に技術を取得し、12月には一人で全製造行程が行えるようになったが、あと1名については、目標のレベルまであと1年必要とみている。

製造個数は1日平均80個と昨年度の60個に対して増加した。製造に携わる利用者、職員の人数の増加が大きな要因である。新たに、シナモン、コーヒー、ラウンドパンの3種類を商品化した。売り上げは他の商品と比較して平均的な数字となった。

コダイブランドを活かした販路拡大が目標であったが、大きな効果を得る方法が発見できず積極的な取り組みは行わなかった。その他の方法として、周辺地域に宣伝用チラシを3千部配布した他、出張販売先の確保に向けて関係機関等に営業活動を行なった。チラシの効果については、数値化は困難だが、チラシを見ての来客は複数あった。また、営業の結果、新規で2件の取引先を増やすことができた。しかし、全般的には製造個数が増えたものの、販路拡大が進まず、販売価格の値下げにより、在庫処分することが増え、売り上げは伸び悩む結果となった。パン作業に携わる職員や利用者の1日平均人数は、昨年度と比べ職員1名、利用者3名の人員が増えたが、前述のように売上個数の減少により前年度一人当たりの1日平均売上額が1,958円に対して、今年度は932円と大幅に下がる結果となった。

30年度都立高校の売店での定期販売が決定しており、販売個数の増加が期待できる。

	28年度	29年度
総売上額	2,440,708円	2,289,934円
純利益	1,438,923円	1,376,124円

(3) 受注事業収入 20万円(前年度比100,000円増)

これまではポスティング作業を中心に活動を実施してきたが、室内作業などの受注も視野に入れた作業内容を再検討する。

【成果と課題】

28年度まで実施していた屋外のポスティング作業から、利用者のニーズに合わせて室内で行える切手仕分け作業に切り替えた。しかし、発注が不定期であり、安定した作業提供にならなかった。受注事業収入は、今年度40,750円となり、前年度63,136円と比べ、22,386円減という結果となった。

3) 職員の支援能力向上

利用者一人ひとりの支援をより丁寧に行うために、職員一人ひとりの支援能力向上を図る。

(1) 新たな職員体制となるため、一から利用者一人ひとりの特徴や留意点について職員間で共有する。

また必要に応じて関係機関と連携するなど、支援の範囲を地域生活に広げていく。

【成果と課題】

ミーティングや会議にて新規の職員に、各利用者の特徴や支援における留意点等を伝える時間を設け、職員の交代が日常の支援に大きな影響が出ないように取り組んだ。環境が変わった年度当初より、大きな混乱はなく、新規の職員と利用者の関係性も順調に構築されてきた。1)で触れたようにチーム支援実施の一員として機能することが全般的な今後の課題である。

また、3名の職員がケア会議に出席し、事業所内の支援から本人を中心とした生活全般の支援に触れる機会を得たが、関係機関との連携や支援の範囲を広げることについての評価は今後の実践による。

(2) 精神保健福祉基礎研修などへ参加し、増加する精神疾患の利用者への支援技術の向上を図る。

【成果と課題】

2月に1名が精神保健に関する研修に参加し、職員会議にてその報告を行なった。症状が安定しない方に対して医療機関と地域が連携して支援している事例の報告であり、関係機関同士の連携が当事者の安定的な日常生活にとって如何に重要であるかとの話であった。

8 その他の成果と課題

1) クッキー製造事業における衛生管理の取り組み

8月にクッキーの中に金属片が混入していたとの報告が1件あった。先方の健康状態の確認と謝罪、

金属片が混入したクッキーの回収を行なったが、金属片の混入経路などを製造者の責任として詳細に検証するという意識が希薄であった。混入経路は、道具の破損による可能性が高かったことから、新たに道具の破損チェックを毎日実施し、管理を徹底した。また、衛生への意識を高めるため、製造担当者3名が食品衛生責任者講習会に参加した。ミーティングにて、正しい手洗方法の確認や白衣および食品の管理方法に関する衛生保持を検討し実践した。

9 開所状況

- 1) 開所期間 自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
- 2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間
- (2) 開所時間 午前9時～午後4時
- (3) 年間延開所日数 245日間 (前年度 242日間)
- (4) 平均活動時間 7時間

10 利用状況

- 1) 利用者延人員 8,165人 (前年度 8,844人)
- 2) 1日平均利用人員 33.3人 (前年度 36.5人)
- 3) 体験実習者延人員 63人 (前年度 125人)
- 4) 1日平均実習人員 0.25人 (前年度 1.9人)
- 5) 実習者実人員 8人 (前年度 18人)

11 利用者状況 (平成30年3月31日現在)

- 1) 年齢
 - 20歳未満 6名
 - 20歳以上30歳未満 12名
 - 30歳以上40歳未満 9名
 - 40歳以上50歳未満 9名
 - 50歳以上60歳未満 4名
 - 60歳以上70歳未満 0名
 - 70歳以上 1名
- 2) 障害の状況
 - 愛の手帳 37名 (内身障手帳4名、精神保健手帳1名)
 - 身体障害者手帳 5名 (内愛の手帳4名)
 - 精神保健福祉手帳 5名 (内愛の手帳2名)
 - 手帳不所持 0名
- 3) 通所手段
 - 送迎車利用 16名 (内3名家族送迎、6名交通機関と徒歩、3名徒歩と併用)
 - 交通機関利用 10名 (内0名送迎及び徒歩、6名送迎、4名徒歩と併用)
 - 徒歩等 24名 (内3名送迎、4名交通機関、2名送迎及び交通機関と併用)
 - 家族送迎 1名 (内0名送迎と併用)
- 4) 居住状況
 - 管内居住 31名 管外居住 10名
- 5) 性別
 - 男性 24名 女性 17名

12 利用者工賃

- 平均工賃
- | | | |
|----|---|-----------------------|
| 月額 | : | 16,696円 (前年度 13,507円) |
| 日給 | : | 1,004円 (前年度 819円) |
| 時給 | : | 299円 (前年度 245円) |

13 生活支援PG実施状況

- 1) 実施日数
 - (1) PG実施日数 133日

- (2) 週平均実施日数 2.6日
- 2) 利用者(平成30年3月31日現在)
 - (1) 利用者数 2人
 - (2) 利用者延人数 185人
- 3) 支援者(平成30年3月31日現在)
 - (1) 職員 6人
 - (2) アルバイト 8人
 - (3) 職員延人数 60人
 - (4) アルバイト延人数 124人
- 4) 内容
 - (1) ウォーキング 72回
 - (2) プール 61回

1.4 夕方生活支援事業実施状況

- (1) 参加者 実30名 延べ439名
- (2) 延実施回数: 136回

【月別実施状況】

実施月	実施回数	延参加人数
4月	10回	29人
5月	10回	40人
6月	11回	41人
7月	10回	38人
8月	11回	29人
9月	11回	40人
10月	11回	37人
11月	11回	37人
12月	10回	42人
1月	11回	37人
2月	10回	30人
3月	10回	39人

【内容別実施及び参加状況】

内容	実施回数	延参加人数
カラオケ	23回	115人
入浴	14回	34人
散歩	9回	17人
ドライブ	5回	2人
ボウリング	24回	100人
料理	12回	62人
ゲームセンター	2回	7人
プール	20回	39人
スポーツ	11回	42人
パソコン	13回	21人

1.5 環境の整備

定期的に室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

1.6 防災

年3回9月、2月、3月に防災訓練を実施した。